

厚生労働科学研究費（障害者政策総合研究事業）
分担研究報告書

「新型コロナウイルス感染に起因すると考えられる精神症状に関する疫学的検討
と支援策の検討に資する研究」

分担研究者 下野 信行（九州大学病院総合診療科 教授）

研究要旨

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）罹患後の後遺症は多彩で、精神的な障害にも遭遇する。抑うつ症状、不安障害、不眠症、注意力障害、記憶障害、身体表現性障害、パニック障害などが挙げられる。これらに関する国内外からの報告も多数存在し、これらに関する文献レビューを行い、後遺症支援のためのガイドライン作成に寄与する。

A. 研究目的

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の罹患者は、少なくとも約7億人に及ぶ。後遺症も多彩で、その中の精神的な障害に関しても国内外から数多くの報告がなされている。

これらの報告に関して文献レビューを行い、ガイドライン作成に向けての提言を行う。

B. 研究方法

PubMed および医中誌を使用して、キーワードを用いた検索式で抽出してレビューを行う。また、会議で以下のことについても確認した。

1) 精神症状の systematic review of review を作成する。2) 日本の研究報告（和文）を含める。3) 漢方に関する論文も含める。4) 2020 年以降の文献を対象とする。

精神症状の記述が曖昧な部分もあり、精神疾患の定義を明確にするために、DSM もしくは ICD で診断された精神疾患に限って、さらに国内でのデータに基づいた原著論文を対象にレビューを行った。また、レビューするにあたって、高橋先生のグループと協力して、研究を施行した。

（倫理面への配慮）

文献レビューに関してはそれぞれの文献においてすでに倫理面に配慮したものであることを確認した。また関係する法令および指針を順守し、

個人情報の保護に努めた。

C. 研究結果

2020 年～2023 年 10 月末までに発刊された論文 1,259 論文をもとに最終的に適格と判断した論文は4論文となった。

D. 考察

海外からの報告が多く、精神症状の不調を検討した報告は極めて多数であった。そこで、日本からの報告に絞って検討することとした。ただその過程で、精神症状の尺度にばらつきが大きく、比較しづらいことを改めて実感した。

尺度を統一するために、定義に基づいた精神疾患に限ったところ該当論文数は少なくなった。

E. 結論

1) COVID-19 罹患後に新規に発生した精神疾患は何かについては、新規に発生した精神疾患の記載のある論文がなく、判断できなかった。また2) COVID-19 罹患後に悪化した精神疾患は何かについては、統合失調症は悪化の可能性があった。

F. 健康危険情報

(分担研究報告書には記入せずに、総括研究報告書にまとめて記入)

280, (2024. 05)

G. 研究発表

1. 論文発表

別紙 4

2. 学会発表

池崎 裕昭, 三好 かほり, 野村 秀幸, 下野 信行. 軽症・中等症の高齢 COVID-19 罹患患者における抗ウイルス薬の効果および死亡リスク因子の検討(会議録). 日本内科学会雑誌(0021-5384) 114 巻 臨増 Page197, (2025. 02)

團塚 裕子, 中村 啓二, 白石 研一郎, 山崎 奨, 高山 耕治, 池崎 裕昭, 村田 昌之, 下野 信行, 松本 信也, 江藤 義隆, 坂井 亮介. SARS-CoV-2 鼻咽頭ぬぐいと血清 PCR 陽性が持続し, レムデシビル耐性遺伝子の影響が考えられた一例(会議録). 日本感染症学会総会・学術講演会・日本化学療法学会学術集会合同学会プログラム・抄録集 Page

米川 晶子, 三宅 典子, 江里口 芳裕, 西田 留梨子, 鄭 湧, 下野 信行. 当院の COVID-19 に罹患した造血器悪性腫瘍患者におけるウイルス排出期間と臨床像に関する検討(会議録). 感染症学雑誌(0387-5911)98 巻 2 号 Page267, (2024. 03)

(発表誌名巻号・頁・発行年等も記入)

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1. 特許取得

2 実用新案登録

3. その他

作成上の留意事項

1. 「A. 研究目的」について

- ・労災補償行政の課題との関連性を含めて記入すること。

2. 「B. 研究方法」について

- (1) 実施経過が分かるように具体的に記入すること。

- (2) 「(倫理面への配慮)」には、研究対象者に対する人権擁護上の配慮、研究方法による研究対象者に対する不利益、危険性の排除や説明と同意(インフォームド・コンセント)に関わる状況、実験に動物対する動物愛護上の配慮など、当該研究を行った際に実施した倫理面への配慮の内容及び方法について、具体的に記入すること。倫理面の問題がないと判断した場合には、その旨を記入するとともに必ず理由を明記すること。

なお、人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針(令和3年文部科学省・厚生労働省・経済産業省告示第1号)、遺伝子治療等臨床研究に関する指針(平成31年厚生労働省告示第48号)、厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針(平成18年6月1日付厚生労働省大臣官房厚生科学課長通知)及び申請者が所属する研究機関で定めた倫理規定等を遵守するとともに、あらかじめ当該研究機関の長等の承認、届出、確認等が必要な研究については、研究開始前に所定の手続を行うこと。

3. 「C. 研究結果」について

- ・当該年度の研究成果が明らかになるように具体的に記入すること。

4. 「F. 健康危険情報」について

- ・研究分担者や研究協力者の把握した情報・意見等についても研究代表者がとりまとめて総括研究報告書に記入すること。

5. その他

- (1) 日本産業規格 A 列 4 番の用紙を用いること。
- (2) 文字の大きさは、10～12ポイント程度とする。

研究成果の刊行に関する一覧表レイアウト（参考）

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書 籍 名	出版社名	出版地	出版年	ページ

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Shiraishi K, Chong Y, Goto T, Ishihimaru T, Shimono N, Ikematsu H, Akashi K.	Correlation of patient symptoms with SARS-CoV-2 Omicron variant viral loads in nasopharyngeal and saliva samples and their influence on the performance of rapid antigen testing.	Microbiol Spectr.	12(11)	e0093224	2024
Nakamura K, Goto T, Shiraishi K, Yonekawa A, Eriguchi Y, Akashi K, Shimono N, Chong Y.	Clinical and virological features of SARS-CoV-2 Omicron variant-infected immunocompromised patients receiving immunosuppressive medications.	BMC Infect Dis.	24(1)	736	2024
Matsumoto Y, Murata M, Ohta A, Yamasaki S, Ikezaki H, Toyoda K, Shimono N.	The humoral and cellular immune responses following booster vaccination with SARS-CoV-2 mRNA in people living with human immunodeficiency virus.	J Infect Chemother.	30(11)	1198	2024